

ミャンマーボランティアの旅報告会

～医療ボランティアから学ぶ～

1月20日本校チャペルで礼拝と特別授業として「ミャンマーボランティアの旅報告会」を行いました。

年末・年始恒例の「ミャンマーボランティアの旅」は12月27日～1月2日まで実施されました。これは、今回が15回目になりますが、日本からボランティアで参加した医師、歯科医師、看護師、作業療法士などがミャンマーの無医村を巡回するモバイルクリニックです。

報告会では、引率者の岩邊俊久氏（中央YMCA館長）から次のようなことが話されました。



・特に今回は昨年のサイクロン被害の残る地域での治療を、ミャンマーの医療チーム（医師、看護師）と共同で実施しました。村の住民にとっては年に1回の診療の機会であり、大きな歓迎を受け、長い列を作って順番を待っておられました。

・作業療法士としては、当校の実習指導者でもあり、特別講義講師の梅崎利通氏が参加され、たいへん好評であった。農作業などの重労働による腰痛、関節痛が多いので、作業療法士

の果たす役割はとても大きいと感じた。

・過去には本校教員、学生、職員も参加したことがあるが、作業療法・リハビリの原点に触れると言う意味でも意義深いプログラムであり、「平和と公正」「共生」ということを肌で感じられる活動である。是非、次年度以降参加して欲しい。

・国際的な支援は、とかく一方通行になりやすいが、現地と十分なコミュニケーションや協力体制を作ることが必要であり、また現地の人材を育てること、例えばクリニック建設を支援することで、将来的にはその国や地域の人たちの自立した取り組みなれる。

話を聞いた学生からは、「YMCAの活動の広がりを知れた」、「作業療法士が活躍できるフィールドの多様性を改めて感じた」、「国際協力の意味を



考えた」などの感想がありました。

